

第 21 回世界 SC 会議 特別号

10 月 21 日から 3 日間、メキシコのメリダにおいて、第 21 回世界 SC 会議が開催されました。

今回の開催は、日本からもっとも遠いラテンアメリカということもあり、日本からの参加は限られていたなかで、報告を通して日本の SC をアピールすることができました。

【第 1 日】10 月 20 日 プレカンファレンス

会議開催前日、会場の近くの小学校にて、すでにセーフコミュニティ認証審査員である方に加えて今後セーフコミュニティ審査員になりたい方、合わせて約 50 人がトレーニングコースを受けました。



まず、レイフ・スヴァンストローム氏が「SC とはなにか？」についてレクチャーをされました。続いて、香港のタン・ワシン氏からの「香港における SC」の説明を挟んで、今後導入予定の、オンライン申請システムの説明がありました。香港 SC 支援センターから、様式 A および B の入力・活用方法を「コミュニティ」「審査員」の視点から説明がありました。

昼食後は、「セーフスクール」「評価方法」などテーマごとの集中講座が実施され、夕方まで缶詰状態でした。

その夜は、ウェルカムレセプションがあり、ハイアットホテルのプールサイドで参加者が交流を深めました。

【第 2 日】10 月 21 日：世界会議 1 日目

開会式

Hotel Fiesta Americana(会議会場)にて開会式が行われました。まず、メキシコの SC 支援センター、そしてコロンビアの SC 支援センター(WHO 協働センター)、世界保健機関(WHO)からの挨拶がありました。

その後、WHO SC 協働センター(レイフ・スヴァンストローム氏)の基調講演がありました。スヴァンストローム氏は、この 1 月に亡くなったボ・ヘンリクソン(Bo



Henricson) 氏の長年の SC への貢献をたたえ、追悼の辞を述べると、会場の全員が黙とうをささげました。

オープニングスピーチ

まず、スヴァンストローム氏が、「安全文化と SC」というテーマで講演を行い、その後、今回の会議の主催者であるメキシコ SC 支援センター代表、開催地であるメリダ市長、ユカタン州知事による講演がありました。

その後、世界各地の SC 活動の報告があり、アジア地域ではチョウ教授が代表してアジアの SC 活動を報告されました。



昼食の後は、各テーマに分かれ、報告が行われました。

その後、SC 貢献者への表彰式が行われました。今回は、香港のタン・ワシン氏が 15 年にわたる功績が認められ、表彰されました。表彰者は、次回の世界大会へ招待されます。

【第 3 日】10 月 22 日：世界会議 2 日目

午前中は、メキシコの取組についてパネルディスカッションが終わると、分科会での報告が行われました。「若者の安全(Youth Safety)」分科会では、ノルウェーからは、学校にいかずにまちでたむろっている少年をボランティア消防団の活動へ誘い、参加に導くことにより、彼らの居場所を与え自己肯定感を高めることで犯罪の道へ進むことを防ぐ取組について報告がなされました。どのくらい犯罪が防げたかは科学的にはまだ証明されていないようですが、これまでの数年間で 55 名が消防士の道に進んだことが紹介されました。

また、学校における暴力について、ルーマニアからの調査結果が報告されました。学内での暴力を生徒同士の暴力、先生から生徒への暴力、生徒から先生への暴力と 3 種類に分類し、それぞれの発生動向について EU 平均値と比較のもと報告がなされました。

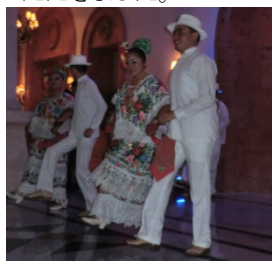
昼食後は、チョ・ジュンピル教授がモデレータとなり、パネル報告の「コミュニティの世界的ネットワーク(Communities global network)」が開催されました。まず、最初に、昨年日本でも SC の評価方法について講義いただいたノースカロライナ大学のシュリカント・バンディ

ワラ教授からセーフコミュニティの始まりや理念等の話があり、セーフコミュニティのメンバーは「友達ではなく、家族である」とまとめられました。

続いて、アメリカ SC 支援センター（シカゴ）代表のドナ・ステイン-ハリス氏からは、アメ

リカにおける活動についてケンタッキー州における事例等とともに紹介されました。最後に、JISC の代表理事白石が日本の事例をもとに、SCを通したネットワークの構築、その利点についてコミュニティレベル、国レベル、そして国際的なレベルで紹介しました。いずれの報告もわかりやすいと会場から多くの賛辞をいただきました。

この日の夜は、公式ディナーで、屋外の会場が予定されていましたが、あいにくの大雨のため、急きょ会場を変え、屋内での開催となりました。メキシコの伝統的なダンスなどのショーなどが催されるなか、各テーブルで国際交流が繰り広げられました。



SC 発祥の地スウェーデンの市長と SC について話す松原市長

【第 3 日】10 月 23 日：世界会議 3 日目

まず、最初は市長たちによるプレゼンがありました。日本からは松原市長が松原市の取組について報告されました。南米各国の市長の報告は、防犯が中心であり、そのためには、いかに警察などの関係組織との連携が大切であるか、そして市民参加が重要であるか、が強調されていました。一方、松原市長は、防災にテーマを絞り、SCを通した「共助」と地域活動の向上が紹介されました。他の報告がスペイン語で行われたなか、松原市長は白石による英語への通訳が加わったため、短くまとめる必要があり、お伝えできる内容も限られてしまいましたが、会場から大きな拍手をいただき、セッションが終わった後には、「言葉

は異なっても、市長の情熱が伝わってきたすばらしい報告だった！」と握手を求めてこられた方もいました。また、セッション後にメディアの取材を受けるなど、日本での取り組みを印象づけてくださいました。

その後の、「Safe Kids」のセッションでは、当機構の白石はじめ、3 人が子供の安全に関する報告を行いました。まず、オーストラリアから「犬にかまれる子どもの事故」について報告がなされました。オーストラリアでは犬にかまれる子どもが多く、その対策の必要性和効果を紹介されました。続いて、コロンビアからいじめに関する報告がなされ、最後に白石が「日本のセーフスクールを通した安全に関する取組」について報告しました。

すべての報告が終わった後、来年 5 月に韓国釜山で開催される第 7 回 SC アジア会議への参加呼びかけのプレゼンが行われました。

閉会式は、いまだかつてないほど参加者が集うなか、次の開催地であるタイ・ナン市へと主催者の旗が手渡されるとともに、ナン市から参加を呼びかけるスピーチが行われました。

閉会後には、各国の市長による会議が参加され、松原市長も参加されました。会議が終わると、リマ市長から「リマは日本とのつながりが多いまちです。ぜひ、今後もお付き合いを続けてまいりましょう」とご挨拶いただきました。

【会議を終えて】

今回の世界大会は、ラテンアメリカでの開催ということで、ある程度予想していたものの、何事も時間通り、予定どおりに進まないことで気苦労が多い毎日でした。松原市長の報告も、予定通りに会場に到着すると演台には違う人の名前があり、事務局に確認すると午後の違うセッションに変わったとのことだったのでその場を離れると、その直後に、事務局から「やはり当初の予定どおり行う」と言われ、慌てて朝食を摂りなおしていた市長を探して会場へ戻る、といったアクシデントがありました。変更については、掲示板もなく口頭による伝達では、連絡も思うように伝わらないことも当然ですが、そのような中、日本人はじめ各国の参加者は、「ここはラテンアメリカですから・・・」と、まずあきらめ、そしてそれを楽しむすべを学びました（苦笑）。今回、松原市長におかれましては、度重なるスケジュール変更、特にご自分のご報告時間が再三変更されたにもかかわらず、柔軟にご対応いただき、また日本をアピールしていただきました。ありがとうございました。

【発行】一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
※問い合わせは下記ヘッダーの連絡先まで。